

# 図書館だより

令和 4年 2月 4日号

## 図書館こぼれ話

今年の2月もバレンタインに向け、手作りチョコのレシピやラッピングの本だけでなく、チョコレートに詳しくなれる本など色々揃えて展示中です！眺めているだけで甘い気分になれるコーナーです。



先月19日に第166回芥川賞・直木賞が発表されました。芥川賞は砂川文次の『ブラックボックス』、直木賞は今村翔吾さんの『塞王の楯』と米澤穂信さんの『黒牢城』がそれぞれ受賞しました。図書館でも展示・貸出していますので、気になっている人はぜひ借りに来てください。惜しくも受賞に至らなかった候補作も予約待ちになっている本もあるほど、今図書館で人気です。直木賞候補になった『同志少女よ、敵を撃て』の著者 逢坂冬馬さんは所沢市生まれということで親近感もあり、今後の活躍が気になる作家さんです。

## ●バレンタインが近づくと恋愛文学が読みたくなる

### 911.6-ユ 『26文字のラブレター』

遊泳舎 || 編 itou あつき || 絵 遊泳舎  
江戸の終わりから、明治のはじまりにかけて庶民の間で流行した唄「都々逸」。俳句は五・七・五、短歌は五・七・五・七・七ですが、都々逸は七・七・七・五。この本には都々逸で詠まれた恋の唄が集められ、解釈つきで掲載されています。俳句とも短歌とも違う新鮮なリズムと、心に浮かんでくる恋の情景を楽しんでください。現代風の挿絵も唄によく合っています。

### 913.6-ア 『ラブコメ今昔』

有川 浩 || 著 角川書店  
自衛隊員たちの恋愛模様を描いた短編集。有川浩ワールド全開のベタ甘な恋のやりとりをテンポよく楽しむことができます。それだけでなく、そこへ常に危険と隣り合わせの仕事に就く自衛隊員ならではの様々な想いが加わって、ほろ苦さや切なさを生み出し、甘いだけではない深みも感じられる恋愛小説に仕上がっています。

## ●3年生へ言葉に代えて贈る本

### 159-エ 『TODAY IS A NEW DAY!』

エリカ || 著 CCCメディアハウス  
人には日々を送っていく中で迷うこと、悩むことが度々あります。あれこれと考えて疲れてしまった時や誰かに励ましの言葉をもらいたくなった時、この本を開いてみてください。一步を踏み出す力をくれる365日分の言葉がみなさんの背中を押してくれます。気に入った言葉を何度も読み返してみるのもいいし、毎日ランダムにページをめくってみるのもいいでしょう。

### B913.6-ウ 『ピンクの神様』

魚住 直子 || 著 講談社  
主人公は周りの同姓との関係に悩む女性たち。小学生も高校生も社会人も主婦も人間関係にモヤモヤしてばかり。気にしすぎたり、価値観の違いに戸惑ったり、心の開き方がわからなかったり、そんな彼女たちが今までの自分を変え、晴れやかに進み出す瞬間が描かれています。同じように悩んだ時のお守りになってくれる1冊。

## ●司書の『今月はこの本を読みました』

2016年のロンドン初演から気になっていた「ハリー・ポッターと呪いの子」。本当はその舞台が見たかったけれどせめて早くその内容が知りたくて、舞台脚本が出版されるや飛びついて読みました。一昨年日本公演が発表され、先日キャストも決定、一気に気持ちが持ってかれました。日本でのハリー・ポッター役は藤原竜也、石丸幹二、向井理です。生き残った男の子ハリー・ポッターがホグワーツ城を戦場にヴォルデモートと死闘を繰り広げてから19年後のお話です。浮き浮きした気持ちを落ち着かせようと、また脚本を再読しました。『ハリー・ポッターと呪いの子 第一部・第二部』（932-ロ 青山社）何度読んでも楽しいです。【鈴木】

## ●気になる新着本

### 707-カ 『目の見えない白鳥さんとアートを見にいこう』

川内 有緒 || 著 集英社インターナショナル  
見えなくても観ることを楽しむことはできる。全盲の白鳥さんと行く美術館は作品を観る楽しさにあふれていた！見えない白鳥さんの楽しみ方を知ることによって鑑賞の幅が広がるのを感じます。白鳥さんと出かけた気分アートに触れてみたくなる、そんな本です。

### B923-リ 『文学少女対数学少女』

陸 秋槎 || 著 早川書房  
陸秋槎が自作の推理小説に見落としがないか検証を頼んだのは天才数学少女の韓采蘆だった。数学を愛する彼女との出会いによって秋槎は苦手な数学のディープな世界へ足を踏み入れることになる。謎解きと合わさることで難しいだけと思っていた数学のイメージが変わるかも！？